



豊中市教育センター

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290

FAX 06-6840-8127

平成22年(2010年)3月24日 第42号

サイエンスカフェ開店4年

「サイエンスカフェを教育センターでやってみたいです。」(eひろば 24号)と当時の所長に提案をしてから、4年。サイエンスカフェは15回を数えました。

今回は「対称性の自発的破れとはなにか?」をテーマに、ゲストは東島清先生。大阪大学理学部の学部長、大学院の理学研究科の科長をされている方です。

このテーマは、南部陽一郎先生のノーベル賞受賞の研究のお話です。

東島先生は、ご自身も理論物理学者で、益川先生や小林先生とも同じ研究室で大学院を過ごされており、招聘教授をされている南部先生の大阪大学での窓口としての役割もされていると以前お会いしたときに伺っていました。東島先生に連絡をとり、すぐに快諾をいただきましたが、「物理の専門家にもなかなか理解が難しい研究なので、市民の方にわかっていただけるかどうか・・・」と言う不安な一言でした。

そんな不安をよそに、当日は会場一杯の状態でした。

そんな中、お話が始まりました。

「ニュートン力学」の世界から、「相対性理論」、「量子論」、「場の量子論」の世界へとお話が進んでいき、この世はどんなものでできているか、参加した皆さんで考えていきました。先生のお話は、まるで私たちが、ニュートンになったり、アインシュタインになったり、そのときの考え方を体験しているようでした。・・・こんな現象を説明するには、こんな風になっているに違いない。その証拠が実験によって証明される。次にまた、新しい現象が見つかる。この現象を説明するには、こんな粒子が存在するはずだ。その粒子の存在を確認する実験が繰り返される・・・



知らないうちに素粒子の世界に引き込まれ、小柴先生のニュートリノが発見された事件に話になり、ニュートリノ天文学の話へと続きます。

そして、ついに南部先生の研究の話です。・・・理論の中で、すべての素粒子の重さの起源となる粒子の存在を予言している。この粒子を使ってヒッグス氏が有望な理論を作り、近々、ヨーロッパの大きな加速器を用いた実験で、このヒッグス粒子が発見されると思われている。これにより、ヒッグス氏は、ノーベル賞を受賞することは間違いないといわれている。そこで、基本原理を発見した南部先生に先にノーベル賞となったそうだ。・・・

ノーベル賞の舞台裏を見た感じがしました。

なにより、このカフェに参加した全員が素粒子の世界の最先端にふれた満足感のなか、今回の物理学への旅は終わりました。

市民にも開かれた教育センターとして、手探りで始めた市民参加の取組み、サイエンスカフェは、回を重ねるたびに、市民のみなさんの熱心な学ぶ意欲に驚かされるとともに支えられていると感じています。(十河)



ノートPCが入りました!

今年度は多くのICT機器が配備されました。校内LANも全校に整備されました。それにもない各校にプロジェクタ6台を配備していますので、それをノートPCや実物投影機につないで教室で日常的に活用くださればと思っています。今回の配備で、ノートPCは6台を教室用として利用しても、今までのノートPCと合わせて先生方に活用いただける台数となります。

新しいノートPCも今までのものと同じように、教室で校内LANやプロジェクタとつないで使っていただけます。各校で教育の情報化を推進してまいりますようお願いいたします。

★★新しいノートPCについて★★

- OSはWindows7、ワードやエクセルは2007のバージョンです。
- 導入研修を各校1回予定しています。
- 今回セキュリティーサーバがバージョンアップしますので、使い勝手が今までよりもよくなります。その使い方も研修に含まれます。
- 新しく配備した大型デジタルテレビに、RGBケーブル(今までプロジェクタとつないでいたもの)で接続してPCの画面を映すことができます。
- セキュリティー面から、USBメモリ等の自動再生を止めています。

◆◆教育センターのホームページをご活用ください!◆◆



1 とよなかスクールネットにつながる環境で、「豊中市教育センター」のホームページを出します。

2 左下の「豊中市教育センター内向けホームページ」というボタンをクリックしてください。



※内向けページでは、研修、教材などの情報を見たり、各種様式をダウンロードしたりできます。新しいノートPCでは、インターネットエクスプローラーのトップページがこの画面に設定されています。今後、さらに充実させていく予定ですので、ぜひご活用ください。

今年度配備した大型テレビや電子黒板(中学校のみ)、実物投影機、そしてPCなど、ICT機器を使って、子どもたちによりわかりやすい授業を工夫してみませんか。また、「授業でこんなふうに活用しています」ということを、情報担当の先生にお渡ししている報告用紙で、ぜひご報告ください。たくさん入ったICT機器の活用方法を先生方みんなで情報共有できるようにしたいと思います。

教育センターでも来年度も、いろいろな研修を予定しています。



教育相談係からのお知らせ

① サタデー相談が、毎週から隔週の相談実施になります。

★平成18年度(2006年度)初期対応の充実をめざして始めた相談でしたが、初回相談の受付状況が改善されたことや、単発相談のニーズと現状に合わせ、**来年度から、第2・4土曜(午前中)に集約し実施します。**

② 平日相談の充実をめざし、保護者・子どもへの支援を行います。

★教育相談の市民ニーズは高く、相談数は年々増加傾向です。今後も教育センターでは、教育相談の見直しを加えながら、その支援の充実を図ります。

○相談期間は原則3年を目安として、状況把握を一定期間ごとに行い、相談の整理や見直しを図ります。

○医療的な視点の必要な相談や長期におよぶ相談は、状況改善等に向け、教育センター専門医の相談を行います。

《いつでもご紹介ください!!》

① 平日相談 (継続を前提にした教育相談)

予約電話 **6844-5231**

② サタデー相談 (単発相談) 第2・4土曜

予約電話 **6844-5292**

③ 発達相談 (発達相談専用) 第4土曜

予約電話 **6844-5292**

④ 教育相談総合窓口 (電話相談)

電話番号 **6840-8121**

★いずれも保護者からの申込みです。

《積極的にご連絡ください!!》

※学校園支援として、積極的に教育センターの心理職(臨床心理士)の派遣を行います。

① 校内研修の講師

(子ども理解・子ども支援に関する内容等)

② 学年会やケース会議

(具体的な事例について専門職の視点を入れて今後の方向性を考える)

③ 子どもにかかわる教員の相談 等

★派遣要請や問い合わせは、管理職を通じて、
教育相談係へ 6844-5292

新年度スタートの研修

4月

(初任者関連)

12(月) 市主催初任者指導教員等連絡説明会

13(火) 初任者開講式(午後) 大阪府立大学 Uホール白鷺

14(水) 幼稚園新採研及び10年研 園長等連絡協議会(午後)

19(月) 10年研校長等連絡協議会(小・中) 13時～

養護教諭新採研及び10年研校長等連絡協議会(午前)

21(水) 小中初任者研校長等連絡協議会(午前) 初任者研指導教員等連絡協議会(午後)

23(金) 小中初任者研修 市実施人権研修(午後)

26(月) 新採栄養教諭研校長等連絡協議会(午後)

(一般研修等)

12(月) 幼保小連絡協議会

30(金) 10年研・ニューステⅡⅢ 開講式

平成22年度(2010年度)も、皆様のニーズに応じた研修を実施してまいります。研究協力員の応募もいたしますのでご参加ください。

新年度へ「元気になる引き継ぎ」を

学年の変わり目であるこの時期、ほとんどの子どもたちは希望と同時に大きな不安を感じるようになります。教育相談の場では、苦戦をしている子どもたちを見ているとより強くそう感じます。そのような子どもたちに対して、この時期にできることは、新担任の先生に子どもたちについて知ってもらい、つまり「引き継ぎ」をすることではないでしょうか。

引き継ぎの最大の目的はなにか。それは、次年度受け持つ先生に、引き継ぎを通して元気になってもらうことです。新担任の先生が子どものことを知ったときに、「私にもできそうだ」「こんなことをやってみよう」など、前向きな気持ちやチャレンジしようと思えることが大切なのだと感じます。もちろん、引き継ぎの際には、たくさんの情報をできる限り詳細に伝える必要があるかもしれません。また、うまくいっていない状況について確認しておくことも大切でしょう。しかしその情報の多さに圧倒されてしまったり、うまくいっていないことばかり知らされたりすると、「どこから手をつけてよいかわからない」と感じ不安を膨らませる結果になってしまうことがあります。そうすると、引き継ぎすることがかえって元気を奪ってしまうことにもなりかねません。

では、新しい先生が元気になるために必要なものとは何でしょうか。それは、前年度の子どもの成長と先生自身がこれまでに取り組んできた成果を伝えることです。例えば、「Aさんは、1年前に比べるとこんなことができるようになった」「Bさんとお話するときには、〇〇の話題が使えるよ」などの情報です。子ども自身の成長やよいところ、うまくいった支援内容は、新担任の先生が、子どもの成長に対する希望を膨らませ、次年度に関わる際の多くのヒントをもたらすのです。

「元気になる引き継ぎ」とは、自分自身の取り組みと子どもとの関わりを振り返り、子どもの成長と成果をまとめあげて、次年度につなぐということです。年度末の忙しい時期ですが、丁寧に子どもの成長と成果をまとめて、次年度への贈り物としてくだされば幸いです。(西川)

